

ルクセンブルク情勢（2011年第1四半期〈1-3月〉）

1. 概況

【内政】

- 国民議会，地方選挙法改正案を可決

【外交】

- 東日本大震災を受け日本国民に対し連帯と支援を表明

【経済】

- 各紙，日本の震災被害及び原発事故に関し連日報道

- インフレ率：1月 3.2%，2月 3.6%，3月 3.7%

- 失業率：1月 5.9%，2月 5.8%，3月 5.8%

- 投資信託資産高：1月 2兆 1 8 4 0 億ユーロ，2月 2兆 2 0 8 2 億ユーロ，
3月 2兆 1 9 0 9 億ユーロ

2. 主要トピック

(1) 国民議会が外国人市長の誕生も可能とする地方選挙法の改正案を採択（1月27日）
国民議会は次の内容を主要点とする地方選挙法改正法案を採択した。

- ルクセンブルクに5年以上在住し，特定市町村に半年以上居住していることを条件に外国人であっても市長及び助役になれる。
- 市町村議会の議論では市長及び助役はルクセンブルク語を日常的に使用する。他の市町村議会のメンバーは仏語及びドイツ語も使用できる。

(2) 東日本大震災を受け，ルクセンブルクから沢山のお見舞い，励ましと支援の表明

3月11日の東日本大震災の犠牲者及び日本人に対し，ルクセンブルク政府要人と沢山の国民からお見舞い，励ましと支援の表明がなされた。震災当日の夜，大公殿下より天皇陛下宛お見舞いのメッセージが公表され，ユンカー首相，モザール国民議会議長，アッセルボルン副首相兼外務・移民大臣など多くの要人，一般市民が犠牲者に対し弔意を表すため日本大使館に記帳に来訪した。また被災者を支援する目的で，国内各地でコンサートなど様々なチャリティーイベントが催され，沢山の義援金が日本に送られた。ルクセンブルク政府は合計25万ユーロの支援を，日本赤十字社を通じ行った。

(3) 各紙，日本の震災被害及び原発事故に関し連日報道

東日本大震災発生以来，当国各紙において，我が国の震災被害及び原発事故の影響に関する報道が連日数多くなされた。福島第一原発の放射能洩れに対し，放射能等の客観情報に加え，我が国国民が驚くほど落ち着いた対応を取っていること，ごく微量が当国にも飛来するものの健康には全く影響がないこと等が報道された。また，当国国境にほど近い仏カテノム原発の安全性を懸念し，その閉鎖を求める動きが当国地方議会や市民に広がっていることも多く報道された。

3. 主な出来事

(1) 内政

【1月】

25日 ユンカー首相，シュミット労働・移民大臣が実子の同乗していた車のスピード違反と同人の警官侮辱罪の嫌疑に係わる警察の取り調べに対し，不当な圧力を掛けたのではないかとされる問題について，国民議会に於いて野党側からの同大臣の辞任・解任要求を退ける

- 27日 国民議会，地方選挙改正法案を可決
28～29日 アッセルボルン副首相兼外相，第16回AUサミットの閣僚会議に参加。
マージンでエチオピア，ケニア，ソマリア，中央アフリカ，ギニア及びブルンジ
の外相と二国間会談

【2月】

- 17日 最大与党キリスト教社会党（CSV）のシルツ院内代表（議会グループ長）が突
然辞任を発表
28日 キリスト教社会党（CSV），満場一致でティール議員（当館注：議会の日本担
当責任者を新たな同院内代表に選出

【3月】

- 29日 フリーデン財務相，2010年の財政状況を国民議会の財政・予算委員会で説明。
財政赤字はGDP比1.7%と説明

（2）外交・安全保障・EU

【1月】

- 17～19日 ヤコブス開発協力相，ブルキナファソを訪問。同国との協力指針プログラ
ム（PIC）2008-2012年（総額6290万ユーロ）の進捗状況を確認
24～25日 マリのウアンヌ外相来訪。ユンカー首相を表敬，ヤコブス開発協力相と協
力指針（PIC）プログラム2007-2011年の実施状況を確認し，次期PIC2012-2016年
の内容について協議
24日 アッセルボルン外相，訪英しハーグ外相と欧州の金融・経済情勢及び北アフリカ・
アラブ諸国情勢について意見交換。ロンドン・ルクセンブルク・ハウスを開館
31日 アッセルボルン副首相兼外相，EU外務・総務理事会に出席（於ブリュッセル）。
欧州経済，チュニジア・エジプト情勢等について協議

【2月】

- 1日 シュミット労働・雇用・移民相，昨年来のセルビアに対するEUの査証免除措置
の適用を受け，セルビア出身ロマ人の移民申請が急激に増えた旨記者会見で説明
2日 グルジアのヴァシャツゼ外相来訪。アッセルボルン副首相兼外相と二国間関係特
に金融技術協力，グルジア紛争解決に向けたEU・ルクセンブルクの協力等につ
いて意見交換
4日 ユンカー首相，2月欧州理事会に出席（於ブリュッセル），EU経済特に競争力
強化策，ギリシャ及びアイルランド財政問題，エジプト及びチュニジア問題など
について議論
4～5日 アッセルボルン副首相兼外相，ミュンヘン安全保障会議に出席。チュニジア，
エジプト情勢などが今年の議論の中心テーマに
8日 ユンカー首相（ユーログループ議長），ギリシャを訪問。パパンドレウ首相とギ
リシャの財政問題等について議論
9日 アッセルボルン副首相兼外相，デンマークを実務訪問
11日 バルニエ域内市場・サービス担当欧州委員来訪。ユンカー首相，アッセルボルン
副首相兼外相，フリーデン財務省及びクレッケ経済通商相と意見交換
14～15日 ベトナムの計画・投資大臣が来訪。ルクセンブルク・ベトナム第6回パ
ートナiership委員会を開催
16日 アッセルボルン副首相兼外相，スペインを実務訪問。ヒメネス外相と二国間関係，
北アフリカ・中東情勢及びEUの新規加盟国問題等について意見交換
17日 アッセルボルン副首相兼外相，アンドラを実務訪問。エスポト外相と二重課税防
止協定に向けた交渉について議論
21日 アッセルボルン副首相兼外相，EU外相・総務理事会に出席。リビア，エジプト
及びチュニジア情勢，欧州経済問題等について議論

- 22日 ヤコブス開発協力相，EU協力相会合に出席（於ブリュッセル）。アフリカ・サヘル地域及びスーダン等への対応について議論
- 22～26日 アッセルボルン副首相兼外相，トルコ，イスラエル，パレスチナ暫定自治区（ガザ・西岸）及びエジプトを歴訪
- 24日 ヘット＝ガーシュ機会均等相，第55回国連婦人の地位委員会に出席しスピーチ（於ニューヨーク）
- 28日 フリーデン財務省，英国を実務訪問。オズボーン英財務相と欧州財政問題，金融規制問題等について意見交換

【3月】

- 1日 アッセルボルン副首相兼外相，第16回国連人権理事会ハイレベルセグメントに出席しリビアの民主化等についてスピーチ
- 1～4日 ヤコブス開発協力相，ベトナム及びラオスを実務訪問。両国に対する開発協力について協議
- 3日 ユンカー首相，リトアニアを実務訪問。グリボウスカйте大統領等と両国関係及び同国のユーロ圏参加の展望等について意見交換
- 4日
 - ・アッセルボルン副首相兼外相，ギリシャを実務訪問。パパンドレウ首相及びドゥルツァス外相と欧州及び最近の主要国際問題について意見交換
 - ・ユンカー首相，ドイツを訪問しメルケル首相とユーロ圏の経済ガバナンスの強化，通貨ユーロの安定及び欧州安定メカニズムの設置とその適用方法について協議
- 7～8日 トーゴのウングボ首相をはじめとする同国の閣僚が来訪。アッセルボルン副首相兼外相，ヤコブス開発協力相及びウィズラー持続的成長・インフラ相と二国間協力の強化について協議
- 10日
 - ・アッセルボルン副首相兼外相，リビア情勢に関するEU特別外務理事会に出席（於ブリュッセル）
 - ・ハルスドルフ国防相，リビア情勢に関するNATO防衛相会合に出席（於ブリュッセル）
- 11日
 - ・東日本大震災の発生を受け，大公殿下より天皇陛下宛お見舞いのメッセージが当地メディアを通じ発出される
 - ・ユンカー首相，リビア及び北アフリカ情勢に関する特別欧州理事会及びユーロ圏非公式首脳会合に出席（於ブリュッセル）
- 11～12日 アッセルボルン副首相兼外相，EU非公式外相会合に出席（於ハンガリー）。欧州対外活動庁（EEAS）による対外政策と共通安全保障政策の状況について協議。また東日本大震災を受けた状況に対し意見交換
- 14～15日 アッセルボルン副首相兼外相，ルーマニアを実務訪問。バコンスキ外相と両国関係，欧州経済・金融情勢及び欧州近隣政策等について協議
- 21日 アッセルボルン副首相兼外相，EU外務・総務理事会出席。震災を受けた日本への支援とリビア情勢等について議論
- 24日 アッセルボルン副首相兼外相，バン国連事務総長と会談（於NY）。またルクセンブルクが立候補する2012年安保理非常任理事国選挙について各地域グループの国連常駐大使等に支持要請
- 24～25日 ユンカー首相，欧州理事会に出席（於ブリュッセル）。欧州安定化メカニズム等に合意。また日本の震災と欧州内にある原子力発電所の安全性及びリビア情勢等について協議
- 29日 アッセルボルン副首相兼外相，リビアに関する国際会議に出席（於ロンドン）
- 30日～4月1日 アッセルボルン副首相兼外相，ブルンジ及びルワンダを実務訪問

（3）経済

【1月】

- 1日 法定最低賃金が1.9%上昇し、月額1,757ユーロに
- 9～11日 クレック経済・通商大臣、経済ミッションを率いてアルジェリアを訪問
- 14～16日 ルクセンブルク市内展示場LUXEPOにて観光展「第20回ヴァカンツ博2011」が開催される
- 16～19日 ギヨーム皇太子殿下、世界未来エネルギーサミット（WFES）に参加するためアブダビを訪問（クレック経済・通商大臣同行）
- 17日 中国工商銀行がルクセンブルクに欧州本部を設置したことにつき、同行頭取、フリーデン財務大臣の出席の下記者会見を開催
- 17～18日 フリーデン財務相、EU財務相理事会及びユーログループ会合（議長：当国ユンカー首相）に出席
- 24日
- 25日
 - ・欧州金融安定化ファシリティ（EFSF）が、アイルランド救済のため、50億ユーロの債券を発行
 - ・アルセロール・ミタルのステンレス部門を新会社「アペラム」として独立させることを取締役会で承認
- 26日 金融監督委員会が、スクーク（イスラム証券）に関する通達を発出。当国におけるイスラム金融をめぐる規制環境を整備し、市場の活性化を目指す
- 27日 ルクセンブルク大学が、政府負担ではない外国人学生の疾病保険料につき今年度末までの保険料を大学が負担すると発表
- 28日 当国税務当局が、グループ内の移転価格に関する通達を発出

【2月】

- 1日 ルクセンブルク証券取引所でEFSF債の取り扱いを開始
- 3日
 - ・財務省の諮問機関である金融市場高等委員会が記者会見を開き、フリーデン財務大臣が、当国金融市場の競争力を維持するための優先分野等を説明
 - ・アルセロール・ミタル、ロダンジュ及びシフランジュ工場において262ポストを削減する計画につき、労働組合・経営者間で協議
 - ・欧州中央銀行が、理事会で政策金利を1%で据え置くことを決定
- 4日
 - ・クリアストリームの創設者エドモン・イスラエル氏が死去
 - ・欧州理事会で独仏が提案した競争力協定にルクセンブルク等が反発
- 5～10日 ギヨーム皇太子殿下、フリーデン財務相が引率する経済ミッションの長として湾岸諸国（カタール、アラブ首長国連邦、サウジアラビア及びレバノン）を歴訪
- 7日 ルクセンブルク商事裁判所がランズ・バンキ・ルクセンブルク（清算中のアイスランド系銀行）が債権者に払い戻す金額を全額とする判決を下した
- 8日
 - ・ユンカー首相、アテネにおいてギリシャ・パパンドレウ首相、ドウルツァス外相及びパパコンスタンティヌ財務相と同国財政、予算及び社会情勢並びに経済ガバナンスの改善について会談
 - ・アルセロール・ミタル社が2010年第4四半期及び2010年通期決算を公表。2009年に比べ2010年売上高は30%近く増加
- 10日 クレック経済・通商大臣、第4回ロジスティクス・マネジメント・フォーラムの席上で、当国内に付加価値税フリーゾーンを建設する構想を発表
- 14～15日 フリーデン財務相、EU財務相理事会及びユーログループ会合（議長：当国ユンカー首相）に出席
- 15日 欧州理事会が、脱税防止のための相互協力及び情報交換に関する指令を採択
- 16日 当国政府、商工会議所及びルクセンブルク企業家連盟が当国の経済競争力強化に関するシンポジウムを共催
- 18日 SES社が2010年決算を公表。売上高は7.1%増加の17億ユーロ。

- 23日 ・同証券取引所がクレディ・スイス・グループの発行した偶発転換社債(contingent convertible bond)の取引を取り扱うと発表
 - ・2010年末の当国金融機関従業員数仮集計値を42752人と発表。2009年末と比べ552人増加
- 25日 ・ルクセンブルクは、FATFのマネーロンダリング及びテロ資金供与に関するグレーリスト手続きから外れることに
 - ・EFSFは金融危機の原因となった証券化商品であるCDO（債務担保証券）と同じなのではないかという英フィナンシャル・タイムズ紙の批判的記事に対し、EFSFが反論

【3月】

- 1日 当国郵便公社P&Tが、IT関連中小企業に投資する子会社P&T Capitalを設立すると発表
- 3日 EUレベルでカダフィ大佐関係者の資産凍結措置が講じられたのを受け、当該措置をルクセンブルクでも即日実施
- 4日 ユンカー首相、ベルリンにて独メルケル首相と（両国財務相同席）、ユーロ圏経済ガバナンスの強化、ユーロ圏の経済安定確保、欧州安定メカニズムについて会談
- 8日 客年4月以来となる政労使三者協議が非公式に開催された
- 10日 ルクセンブルク中央銀行が2010年度決算を発表
- 11日 ・金融監督委員会、詐欺やインシデントを引き起こす外部からのサイバー攻撃に関する通達を发出
 - ・ユンカー首相、ブリュッセルにて開催されたユーロ圏非公式首脳会議に出席。独・仏による当国の賃金自動インデックス制への批判を退ける
- 14～15日 フリーデン財務相、EU財務相理事会及びユーログループ会合（議長：当国ユンカー首相）に出席
- 15日 ・金融監督委員会の反対を受け、KBCが子会社のKBL European Private Bankersをインド系のHindujaグループに売却する計画を中止
 - ・金融監督委員会が通達により、ストレステストの基本方針を発表
- 15～16日 ルクセンブルク・ファンド協会がスプリング・コンファレンスを開催
- 17日 クレツケ大臣経済・通商大臣、当国エネルギー政策についてのコミュニケを発表。原子力から再生可能エネルギーへのシフトを推進
- 21日 ルクセンブルク中央銀行が、2011年第1回マクロ経済報告を公表
- 21～24日 ギヨーム皇太子殿下、経済ミッションを引率しトルコを訪問（クレツケ経済・通商大臣同行）
- 29日 ・ルクセンブルク警察が、破産したアイスランド系銀行のカウプシング銀行を家宅捜索
 - ・フリーデン財務大臣、国民議会財政予算委員会において2010年財政の状況に関し報告
- 30日 カーゴルクス2010年決算公表。収入1748百万米ドル、利益59.8百万米ドル（前期は153.3百万米ドルの損失）に回復

（4）大公室・社会

【1月】

- 5日 ジャン前大公の90歳の誕生日を祝してルクセンブルク・フィルハーモニー会場で記念コンサート開催

【2月】

- 3日 アンリ大公殿下、軽い不調を訴えられ急遽ルクセンブルク市内の病院で心臓外科

手術（経皮的冠動脈形成術）を受けられる。その後数週間居城のベルク城にてご静養される

- 14日 大公同妃両殿下の御成婚30周年を記念し「既に30年の愛(Trente ans d'amour déjà)」と題するアルバムが刊行される

【3月】

- 12日 当国ガン対策協会主催のリレーフォーライフ開催（於ルクセンブルク市）。開会式でディ・バルトロメオ保健相より日本の被災者と日本国民に対し哀悼の意と連帯を表明
- 22日 マリア・テレザ大公妃殿下、55歳の誕生日